研 究 結 果 報 告 書

中国の辛亥革命をプロデュースした梅屋庄吉と近代革命期の中日交流

所属：南開大学　外国語学院　日本語学科
役職：准教授
氏名：呉　艶

本研究は「梅屋庄吉」に絞り、孫文の革命との関わりに考察を加えながら、中国 近代革命期の中日交流を一瞥しよう とするものである。嘗て、中国では中国近代革命における日本人の支援活動は一概に「政治的目的によるもの」だと見なされる時代があったが、近年、それが見直されるようになり、孫文の革命を生涯にわたって支えてくれた日本人の友人たちの中国革命への支援を客観的に見直されるようになった。その一例として、南京へ資料調査に行った時、辛亥革命後、嘗て孫文の臨時大総統府として使われた建物、いわゆる南京総統府の旧址で建設された「南京中国近代史遺址博物館」へ行ったが、その中庭に、孫文を挟んで四つの人物銅像が置かれているのを見た。中の一人は宮崎滔天である。更に銅像には「赤誠友誼」という文字がつけられ、真心がこもった友誼という意味である。しかし、文献調査を通して、孫文の革命事業に対して、生涯変わらぬ支援を続け、金銭的にも、また労力でも力を発揮し、40 年間（1895-1934）で、合計 10 億円に及ぶ金額の支援を行なった梅屋庄吉の存在は、未だに中国民間では殆ど知られていない事実が分かった。ただし学会発表がきっかけで、学者との交流を通して、梅屋庄吉と辛亥革命との関わり に 対する検討が依然として疎かにされているが、これまで主に日本明治以後の対中政策や意図分析を中心に研究を展開してきた中国の学界の視点が変わりつつあることも分かった。

本研究は中日両国での文献調査で進めてきた。また 2016 年 11 月 30 日から 12 月 2 日にかけて韓国で行われたソウル大学主催による東アジア日本研究者協議会第一回国際学術大会にて研究発表をし、学者たちと孫文時代の中日関係について討論をした。本研究を進めるに当たり、日本東北大学の安達宏昭先生から有益な助言を下さった。考察を踏まえて言えるのは、純粋に孫文の人間性に惹かれ、アジア全体の独立と発展を望んでいた孫文の理想に共感して、無欲で援助した梅屋庄吉のような日本人が実在し、孫文の近代革命への経済支援を考える場合、けっして本土または海外の華僑のみによって担われたのではなかったことに注意すべきである。

研究成果の公表について

口頭発表　（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）
①　「梅屋庄吉について」
　呉　　艶
（ 第一回東アジア文化研究フォーラム）
　2016年11月8日　中国天津市　南開大学
②　「中国近代革命期における中日交流ー孫文と梅屋庄吉」
　呉　　艶
東アジア日本研究者協議会　第一回国際学術大会
　2016年11月30～12月2日　韓国ソウル大学校
③　「孫文と梅屋庄吉――辛亥革命を支えた中日交流に関する一考察」
　呉　　艶
　第五回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム（延辺大学と明治大学共同主催）
　2017年8月19～20日　中国吉林　延辺大学
④　「孫文の日本時代と梅屋庄吉」
　呉　　艶
　東アジア日本研究者協議会　第二回国際学術大会
　2017年10月28～29日　中国天津市　南開大学

論文　（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

「関于梅屋庄吉」（梅屋庄吉について）呉艶
『東アジア文化研究フォーラム論集』（2016年11月）

「中国近代革命期における中日交流――孫文と梅屋庄吉」呉　　艶
『東アジア研究者の対話』2016年12月

「孫文と梅屋庄吉――辛亥革命を支えた中日交流に関する一考察」呉艶
『日本語言文化研究』第五輯（2018年4月）

書籍　（題名・著者名・出版社・発行時期等）